

令和7年度（2025年度）
知床世界自然遺産地域科学委員会
第2回海域ワーキンググループ

議 事 録

日 時：2026年2月17日（火）午後13時30分開会
場 所：かでの2・7 1070会議室

1. 開会

●北海道（小峰） まだおそろいでない方もいらっしゃると思いますが、お時間となりましたので、ただいまから令和7年度第2回知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループを開催いたします。

本日は、委員の皆様をはじめ、関係機関の皆様には、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の進行を担当いたします北海道庁環境生活部自然環境課の小峰と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のワーキングは、対面のほか、Z o o mによるオンラインシステムを併用しております。オンライン参加の皆様におかれましては、発言時を除いて音声をオフにさせていただきますようお願いいたします。また、ご発言の際には所属とお名前の発言をお願いいたします。

本日の委員の皆様の出席状況です。

牧野委員、松田委員、綿貫委員はご欠席となります。

小林委員、嶋田委員、三谷委員はウェブでのご出席、そのほかの委員の皆様には対面でのご出席をいただいております。

それでは、開会に当たりまして、北海道環境生活部自然公園担当課長の島村よりご挨拶申し上げます。

●北海道（島村） 皆さん、こんにちは。

北海道庁自然環境課の島村と申します。

本日は、委員の皆様をはじめ、関係機関の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から知床世界自然遺産の保全管理にご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、知床の海洋環境を取り巻く変化につきましては、近年、温暖化の影響が顕著に現れ、魚介類の変化や海鳥の減少、海洋熱波と呼ばれる現象の発生など、気候変動による影響が想像以上に深刻な状況となっており、対応が求められております。

本日は、多利用型統合的海域管理計画定期報告書（案）などのご議論のほか、知床財団様より、この1年間、既に様々な取組が行われている世界自然遺産登録20周年記念企画の進捗状況などにつきましてご説明をいただく予定となっております。

本ワーキングを通じまして、知床の価値をよりよい形で後世に引き継いでいくため、改めてお集まりの皆様のご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

●北海道（小峰） それでは、議事に入ります前に配付資料の確認をさせていただきます。

お配りしている資料ですけれども、次第、出席者名簿、配席図、資料1、資料2、参考資料の1と2となっておりますが、お手元にございますでしょうか。

資料の不足等がありましたらお申出をいただきたいと思います。

それでは、ここからは山村座長に進行をお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いたします。

2. 議事

●山村座長 山村でございます。よろしくお願いたします。

それでは、早速、議事1の知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画の定期報告書（案）について事務局からご説明をお願いいたします。

●北海道（黒田） 事務局の北海道庁環境生活部自然環境課の黒田と申します。

私から、資料1の知床世界自然遺産地域多利用型総合的海域管理計画の定期報告書について概要を説明させていただきます。

科学委員会では、科学的知見に基づき順応的管理を進めるため、長期モニタリング項目を定めておりました、海域ワーキンググループで担当しているモニタリング項目につきましては、資料1の最終ページに一覧表として示しております。

各モニタリング項目について、毎年、最新のデータを収集しております。

委員の皆様には、ご担当の各モニタリング項目について、項目ごとに設定されております評価基準等に基づき、評価をお願いしております。

モニタリング項目は、海洋環境、魚介類、海棲哺乳類、鳥類、地域社会と大きく五つに分類をしておまとめしております。それぞれの五つの分類も分類評価という形で評価していただきまして、最後に、大分類を踏まえた総合評価は、この海域ワーキング終了後に座長にいただいております。

こちらは、最終的に定期報告書としてまとめまして、年度末までに当課のホームページで公表しております。

それでは、資料に沿ってご説明をさせていただきます。

表紙をめくりますと、まず、目次がございます。

目次1「はじめに」、目次2「総括」と続いて、目次3から「モニタリング結果と評価」ということで、先ほど説明した五つの分類ごとに長期モニタリング項目の評価をしております。

目次の各モニタリング項目の後ろに括弧書きでナンバーが書かれています。

例えば、ア「海洋観測ブイによる水温の定点天観測（No. 1）」とありますが、括弧書きのナンバーは、第2期長期モニタリング項目におけるモニタリング項目番号になります。番号のうち、丸で囲まれているものは地元自治体や関係団体、専門家、そのほか行政機関

等で実施しているモニタリングです。丸で囲われていないものは、管理機関の環境省、林野庁、北海道の3機関でモニタリングを実施しているものということで整理しております。

さて、1ページの「はじめに」ですが、事務局で時点修正をしております。

続いて、2ページ「総括」です。

この海域ワーキング終了後に山村座長に総合評価を依頼させていただきます。

3ページ以降の各モニタリング項目の説明にうつります。

前回7月の海域ワーキンググループ第1回目での修正は赤字で記載しています。

今回、2月の第2回目時点の修正は青字です。

まず、3ページの「海洋環境」からです。担当は西岡委員です。

全体的には、前回の7月時点でかなり丁寧に赤字を入れていただきましたので、今回の青字はほとんどございません。

令和6年度の状況になりますが、令和6年度も海水温の上昇は続いておりまして、オホーツク海全体では流水の減少傾向が見られるものの、オホーツク海の南部では顕著な減少傾向は見られない、引き続き、データの蓄積と長期的視野からの対策が必要との評価をいただいております。

4ページ以降が各個別のモニタリングについての評価になります。

最初の4ページは、海洋観測ブイによる水温の定点観測です。

この観測結果でも高水温化傾向が示唆されておりますが、次の5ページの最上段にありますように、羅臼側に影響していると考えられる亜寒帯系水に対し、ウトロ側は比較的高水温の宗谷暖流水の影響を強く受け、両地域の水温差が現れてきたと推定している、また、5ページの13行目、真ん中辺りの赤字ですけれども、令和6年の全層平均水温が6月初旬から10月初旬にかけて、ほとんどの日で最高水温を記録した、さらに、そこから下、5行目辺りの赤字ですけれども、令和5年以降の高水温化は顕著で、近年、海洋熱波と呼ばれる現象が頻発しており、水温の動向を注視する必要があると評価をいただきました。

6ページ以降については、羅臼側のブイのデータの時点修正をしております。

続きまして、15ページからが「イ 航空機、人工衛星等による海氷分布状況観測」になります。こちらは第一管区海上保安本部のモニタリングデータを更新しております。

18ページから「ウ 海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析」です。海上保安庁海洋情報部のモニタリングデータを時点修正しております。

続きまして、21ページからは「魚介類」になります。

前章の「海洋環境」で述べたとおり、高水温化の影響で南方系の魚類、主にブリの漁獲量の増加等が継続という分類評価をいただいております。

23ページからの「ア 海域の生物相及び生息状況」については、新しいデータがござ

いませんので、更新はございません。

28ページから「伊 浅海域における貝類定量調査」になりますけれども、令和元年、2019年の調査以来、6年ぶりに今年度、環境省の事業で実施しました。

本日、ご出席をいただいております千葉委員が事業に関わられているということですので、調査概要と結果について千葉委員から簡単にご紹介をお願いいたします。

●千葉委員 貝類定量調査に関しましては、約5年に1回という頻度でやっけていまして、2025年に第4期目ということで実施いたしました。

その結果は次年度の報告書にまとめられますけれども、30ページから33ページのグラフを更新するような形で調査を再現して評価しております。

結論から申し上げますと、種数や種の構成などの大まかなところでは大きな変化がありませんでしたので、遺産登録時の状態は維持されていると結論づけました。

ただし、細かく見てみますと、種構成の中でも北方系の種が徐々に減っていて、逆に温帯性の種が徐々に増えている傾向が見られましたので、緩やかに知床沿岸の貝類群集は種構成が変わりつつある可能性がある、言い換えますと、今後5年、10年と続けていく中で、ひょっとしたら遺産登録時から変わっているという評価になり得るような一端は観察できましたので、ご報告申し上げます。

●北海道（黒田） ありがとうございます。

今、千葉委員からもご説明がありましたけれども、今回の報告書は令和6年度分の報告書のため、ただいまご紹介をいただきました情報の更新につきましては、来年度の報告書に掲載したいと考えております。

続いて、34ページから「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握」になります。

令和6年度、昨年度の結果になりますが、まず、サケ類につきましては、サケは斜里町、羅臼町ともに前年比を上回りました。一方で、カラフトマスは減少が続きました。

35ページ最上段に「河川工作物の改良による効果が示唆される河川も見られるが、サケ、カラフトマスの漁獲量には減少傾向が見られ、特に、カラフトマスでその傾向が顕著であることから、引き続きモニタリングを継続し、その効果を検証していくことが重要である」とあります。

この件につきましては、1月に開催しました河川工作物アドバイザー会議でもお話がありまして、令和7年度に産卵床数・遡上数調査を、斜里側のルシャ川、テッパンベツ川、そして、羅臼側のルサ川の3河川で実施したところ、いずれの河川とも調査時期にカラフトマスを観察することができなかったという調査結果が報告されております。

河川の調査結果については、今後海域にも影響してきますので、まずは近い時期に海域ワーキングのご担当の委員と河川工作物アドバイザー会議の委員が合同で話し合う機会を設けて、海洋生態系の保全と安定的な漁業の両立に向けて科学的知見からの対応策等につ

いて検討する場を設けたいという話がありました。

3月1日に開催予定の科学委員会でもそうした話題が出てくるかと思っております。山村座長を含め、担当の藤原委員、嶋田委員には個別にまたご相談させていただく機会があるかと思っておりますので、その際はご協力をよろしくお願いいたします。

38ページ以降につきましては、それぞれの種類のデータを更新しております。最初がサケ類、続いて、40ページからがカラフトマス、42ページからがスケトウダラ、44ページがスルメイカ、そして、45ページがブリの順番に最新データに更新しております。

46ページからは「スケトウダラの資源状態の把握と評価」ということで、それぞれのモニタリングの実施したデータを時点修正しております。

続きまして、50ページ以降が「海棲哺乳類」です。

まず、51ページからが「アザラシ、トドの生息状況の調査」ということで、令和6年度 海棲哺乳類生息状況調査の業務を2年ぶりに実施した結果を記載しております。

海上（船舶）からのドローンによる調査はいずれも未確認であった、陸上からの調査はサロマ湖、能取湖いずれも12月から1月中旬くらいまでがピークで、その後、確認個体数が減少という結果であった、と記載しております。

続きまして、56ページからが「トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性、アザラシ、トドの被害実態調査」です。

58ページ表3の表記について、今回から、根室地区におけるトドの採捕状況とし、表1、表2と同じ表記で見やすく修正しております。

続きまして、63ページからが「シャチの生息状況の調査」です。

こちらは、三谷委員に時点修正をしていただきました。

続きまして、65ページからが「鳥類」です。

本日、ご担当の綿貫委員がご欠席ですが、前回7月時点でかなり丁寧に赤字を入れていただいております。

65ページの分類評価では、ケイマフリは個体数が維持されている、目下の懸念でもありますオオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウの減少が継続しているという評価をいただきました。また、分類評価4行目に「陸上生態系と海洋生態系の関連性の観点から、ほかのモニタリング指標との関連性を検討する必要がある」とありますように、先ほど河川工作物アドバイザー会議と海域のワーキンググループの合同のお話をしましたが、場合によってはエゾシカワーキングやヒグマワーキングのモニタリングで得た指標等と合同で科学的知見からの対応策を検討することも今後、必要かもしれないということで、事務局としても考えております。

66ページからが個別のモニタリング項目です。

66ページの「今後の方針」でも、陸上と海洋の横串での検討が必要ではないかという

評価をいただいております。

次の議事にも関係するのですが、昨年7月の世界遺産委員会の決議でも海鳥の減少の原因についての対応が求められておりますので、改めて綿貫委員を交えて山村座長と事務局とで個別具体的に今後の対応についてはご相談させていただきたいと思っております。

78ページ以降は海ワシ類のモニタリング調査の結果を、最新データに時点修正しております。

87ページからは、「地域社会」です。

ご担当の牧野委員、松田委員、いずれも本日は欠席ですが、分類評価につきましては、利用者数などはコロナ後、回復傾向で順調に増加をしている、ブリの漁獲量、漁獲金額が増加傾向で、あわせて、マグロ等今後漁獲が増えるであろう新たな魚種に注視していくという評価をいただいております。

最後に、94ページからが資料集となっております。

96ページ、98ページ、99ページのようにモニタリングがもう更新されていないページにつきましては、かなり古い情報になるため、精査をしまして、今回からページを削除することで整理をする予定でおります。モニタリングが更新されておりますデータについては、最新データに時点修正しております。

資料1の説明については以上になります。

繰り返しになりますが、地球温暖化の影響で気候変動が急速に進んだことを受けて、「知床の世界自然遺産地域気候変動に係る順応的管理戦略」を作成したところです。

先に述べましたように、海域ワーキンググループだけでは原因究明や対策を検討する上で材料がそろわないような課題等も発生してきておりますので、各ワーキングでの横串での議論等も必要になってきたと事務局としては感じているところです。

まずは、サケ科魚類や海鳥についての直近の課題につきましては、ワーキンググループの垣根を越えた検討等を始める可能性もありますことから、各委員の方々にはこれまで以上のご協力を重ねてお願い申し上げます。

私からの説明は以上です。

●山村座長 ありがとうございます。

ただいまのご説明に関して、ご意見などがありましたらお願いします。

私から1か所ですが、35ページの一番上の丸印のところについてです。

書きぶりが、これだと河川工作物の改良が不十分で、サケ、マスの回帰を阻害しているというふうにとちょっと誤解を招くと思うのです。近年の海洋環境の影響が非常に大きいことですので、書きぶりを考えたほうが、またIUCNの指摘をもらうことになってしまい

ますので、そこは考慮していただいたほうがいいのかと感じました。

それから、これは特段どこという話ではないのですが、ただいまご説明をいただいたところについてです。近年の状況を地球温暖化というふうにご説明しているのですが、地球温暖化というのはまた別の問題でして、それは50年から100年のトレンドで、例えば、水温で言えば1度とか、そのぐらいの変化なのです。背景にはあるのですが、近年の4度、5度というアノマリーは地球温暖化とは違いますので、言葉の使い方は気をつけていただきたいと思います。

ほかにございませんか。

●藤原委員 さけます・内水試の藤原です。

先ほどの説明の中で、3月に科学委員会が開かれて、その後、海域と河川工作物の合同ということで、先ほどカラフトマスのお話がありましたが、そういう場は新年度に入ってからという感じですか。

●北海道（黒田） そうなると思います。

●藤原委員 実態としてカラフトマスの資源量が激減していて、世界的に見て明らかに分布域が北側に移っているということを考えると、この辺のところをどう捉えて評価するのか検討する時期になってきていると思いますので、そういう観点でご検討いただければと思います。

●山村座長 ほかにございませんか。

（「意見なし」）

●山村座長 また何か気がついたことがありましたら、後ほどでもお願いします。

それでは、次の議事に移ります。

議事2の第47回世界遺産委員会決議に係る対応について、事務局からご説明をお願いします。

●北海道（黒田） 続きまして、資料2の世界遺産委員会決議に係る対応について説明させていただきます。

勧告内容につきましては、7月の第1回の海域ワーキングで環境省より説明があったところです。本日は、その勧告に対する対応方針案と今後のスケジュールの2点についてご報告をさせていただきます。

資料2をご覧ください。

色つきの部分が主に海域ワーキンググループに直接関係する部分です。

表の見方として、左側に勧告、右側が対応方針（案）ということで記載しています。1

0月の科学委員会でも使用した資料をそのまま使わせていただいております。

4のトドについての勧告ですけれども、基本的には7月にご説明もありましたが、令和6年度に改定されましたトド管理基本方針によって科学的な根拠をもって知床地域のトドの捕獲数を決めたことを高く評価する、引き続き持続可能な漁業を実施していただきたいということが世界遺産委員会からありました。

3行目に「必要に応じてIUCN種の保存委員会と協議し」と記載がある点につきまして、前回の7月の海域ワーキングのときに松田委員より協議すべきではないのかというご意見があったことを踏まえ、10月の科学委員会でもその旨を報告しました。

結論としては、現状の対応について高く評価されていることから、今すぐではなく、文字どおり必要に応じて協議することとしました。理由としては、現在行っている管理の根拠となる科学的な論文等が整うまで、もう少し時間がかかるためということで、そうした科学的根拠等をもって協議ができる体制を整えることに今は注力するという事です。そのような事情を踏まえて世界遺産委員会への回答書を作成する方針です。

続きまして、5が主に海鳥についてです。

先ほども説明しましたが、一部の海鳥、つまり、オオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウについて、個体数半減の原因についてモニタリングを通じて特定し、その結果の報告、必要に応じた対応を要請ということで勧告があります。

本日は、海鳥のご担当の綿貫委員がいないため、議論を深めることはかないませんが、綿貫委員にご評価をいただいた報告書につきましては、海ワシ類が増加傾向であること、ヒグマやオジロワシの捕食圧、餌資源の減少といったところに可能性としてはあるのではないかと評価いただいております。陸上生態系の情報共有等も踏まえ、改めて対応につきまして山村座長、綿貫委員と個別具体的な方策についての相談を今後進めさせていただきたいと思っております。

6は長期モニタリング計画が改定され、サケ科魚類、海鳥、海棲哺乳類のOUV、いわゆる顕著な普遍的価値を保護するモニタリングを引き続き実施していただきたいということです。

こちらの対応については、現在行っておりますように、引き続き長期モニタリング計画に基づいてモニタリングを継続することで対応することとしまして、場合によっては第2期の長期モニタリング計画の中間評価を来年度の2026年度が終わりましたら、つまり、2027年の3月以降に中間評価を行うこととしておりますので、こちらの世界遺産委員会への提出が来年の12月1日までということで、その中間評価を提出するという対応を検討しております。

以上が勧告とその対応についてになります。

次のページは作業スケジュールです。

世界遺産委員会への回答が来年、2027年12月1日までとなっておりますので、まずは、今説明させていただきました対応方針で個別具体的に検討を進めるものは進め、今年の秋頃には報告書素案をメーリングリスト等を活用して委員の皆様にも共有し、検討を始めることからスタートしていきたいと考えております。その後、来年の、具体的には第2回目の海域ワーキングあたりで素案から案に修正したものを提示し、最終案、そして英文作成へと作業を進めていきたいと考えております。

資料2についての説明は以上になります。

●山村座長 ただいまのご説明について、ご意見などがございましたらお願いします。

●千葉委員 資料2の説明を伺っていて気づいたので、資料1に戻ってしまうのですが、オオセグロカモメが減った理由に関してです。

75ページに綿貫委員が書かれていますが、一番下の行で、ヒグマやオジロワシの補食圧及び餌資源の減少と書かれていますが、補食圧は増加したということですね。

●北海道（黒田） そうだと思います。

●千葉委員 字面だけの話ですが、これだと捕食圧が名詞で終わっていて、「の減少」になるので、減少になってしまうのではないかと思います。瑣末なことですがけれどもね。

●北海道（黒田） 綿貫委員にも確認して修正を検討します。

●山村座長 ほかにございませんか。

IUCNのトド対応に関してですが、管理計画を策定した科学者間で情報を共有しております、こういう動きがあるということで、早く科学論文を用意しようということで確認しております。

それから、例えば、海鳥の減少などで、モニタリングで解明というお話ですがけれども、モニタリングというのはあくまでも状況の監視、データを集めるということで、メカニズムというとな話が変わってくるのかなと思います。

もちろん、モニタリングのきめ細かなものの分析から明らかになることもあるかと思うのですがけれども、因果関係の解明という、別の調査を組むことも必要になってくることもあると思います。場合によってはそういう対応も要るのかなということを一応、確認しておきたいと思います。

科学委員会によくこういう話題が出るのですがけれども、肝心の予算がどこからも出てこないということがありまして、なかなか難しいところではあります。

ほかにございませんか。

(「意見なし」)

●山村座長 それでは、次の議題です。

議事3のその他について、まずは参考資料1のご説明をお願いします。

●北海道(黒田) 引き続きまして、参考資料1をご覧ください。

令和8年度からおおよそ3か年の海域ワーキングの予定をまとめました。

まず、表の見方をご説明しますが、一番左側に年度及び具体的な月があります。それに沿って科学委員会と海域ワーキンググループを予定している月に記載しております。

海域ワーキンググループの縦の表の中には、例えば、2026年7月には定期報告書について議事にしたいということで、現在、考えている議事の内容についても記載しております。

この3か年で、海域ワーキンググループとしては主に三つの大きな議題が控えておりますので、それに沿って説明をさせていただきます。

一つ目が、海域ワーキンググループの隣の真ん中の列にありますけれども、(A)委員会決議に係る保全状況報告書の提出です。これは、この前の議事で説明したとおりですけれども、委員会決議に係る保全状況の報告を2027年12月1日の締切りに向かって個別具体的に検討を進めていきます。海域ワーキンググループの具体的な作業としては、先ほども説明しましたけれども、今年の秋頃には、素案をメーリングリストを通じて皆様に展開していくところからスタートしていきたいと思っています。

二つ目が、その右隣に記載のある(B)第4期多利用型統合的・海域管理計画です。本日の海域ワーキンググループの冒頭でご検討いただいた報告書は現在の第4期管理計画に基づくものでありまして、計画期間が令和5年度から9年度までとなっておりますので、まずは、今年の秋頃には事務局で見直し案の検討を進めていきたいと思っております。

その後、委員の皆様への具体的な作業としましては、令和9年度の1年間かけて見直し、改定案の検討を進める予定で考えております。

最後が、一番右の列にあります(C)第2期長期モニタリング計画です。

こちらは令和4年度から令和14年度の10年間の計画になりますけれども、中間評価は令和9年度以降に行う予定となっておりますので、来年の3月以降に中間評価を各委員にご協力をお願いしたいと思います。

以上、おおよそ来年度以降の3か年の予定について、前広に、計画的に進めることが必要なことから、事前に皆様に共有させていただきました。

最後に2点、事務局から、今後の予定とは異なりますけれども、報告事項をさせていただきます。

1点目ですけれども、羅臼岳のヒグマによる人身事故についてです。

昨年の海域ワーキンググループが7月17日で、その後、既に報道あるいは海域ワーキンググループのメーリングリスト等でもご承知のことかと思えますけれども、昨年の8月14日に大変痛ましい人身事故が発生しました。

現在、知床ヒグマ対策連絡会議で事故の検証と再発防止策の検討を行っておりまして、年度内、来月をめどに今後の対応策等について報告書を取りまとめる予定でおりますことをご報告させていただきます。

最後に、2点目ですけれども、羅臼岳のニカリウス地区で予定しておりました携帯電話基地局についてです。

こちらにも既に報道されている情報の共有になりますけれども、ニカリウス地区で予定していた携帯電話基地局の整備や調査については一旦立ち止まり、来年度は衛星を使ったインターネットサービスのスターリンクミニを運用した実証実験を積み重ねた上で、この実証結果を踏まえて今後の対応は改めて検討することになったということです。

報道されている以上のことは我々も把握していない部分がほとんどですので、ここでの議論を行うわけではないのですが、10月の科学委員会でも報告があった事柄ですので、海域ワーキンググループでも共有させていただきます。

事務局からは以上です。

●山村座長 ただいまのご説明について何かございますでしょうか。

(「意見なし」)

●山村座長 それでは、参考資料2について、知床世界自然遺産登録20周年事業について、知床財団からご説明をお願いします。

●知床財団(秋葉) 知床財団の秋葉です。

お時間をいただき、ありがとうございます。参考資料2をご覧ください。

今年、世界遺産の20周年ということで、オフィシャルの行事も行われておりますが、1年間を通じて、世界遺産としてのこの20年間の歩みを振り返るといふ事業を知床財団でご提案して行っております。

1の経過にあります、海域ワーキンググループでも、科学委員会のワーキンググループでも過去20年ないしはそれ以上の議論の経過を第1回目のワーキングで資料をお出しして、皆さんと一緒に確認していただきました。

また、11月13日ですが、地元の斜里町で知床シンポジウムということで、地域を中心に、この20年を振り返るといふシンポジウムを行っております。

2の実施体制は記述のとおりで、2ページにありますのが11月13日に行われましたシンポジウムの概要と結果を簡単にご紹介しております。こちらにも100名を超える参加がありましたので、併せて報告させていただきます。

今後の予定で、メーリングリスト等でもお知らせしますが、3ページに記載があります。

今月28日、翌日に2回目の科学委員会がある、その前日という位置づけですが、札幌で総括的な20周年のシンポジウムを今、企画、準備をしているところです。内容、プログラムについては記載のとおりですが、科学委員会の各ワーキングの方々にもご登壇をいただいて、特に、科学委員会を中心とした管理の取組と地域連絡会議を中心とした地域での取組の20年を総括的に振り返るという内容を想定しております。

各ワーキングの委員の皆さんにも、お時間があれば参加していただけるようお願いしているところですので、ぜひご検討をいただければと思います。

最後に、4ページになりますが、今後の予定についてです。

このシンポジウム等の実施を踏まえて、来年度に今回の一連の振り返りを踏まえた記念誌を発行する予定で準備しております。特に、科学委員会の取組はかなり膨大な議論の蓄積がありますので、これについては各ワーキングごとでのご議論の総括的な内容を、座長に原稿の依頼を行って取りまとめをお願いしたところです。

海域ワーキングについては、山村座長にまとめをいただいております。どうもありがとうございました。

ご依頼になるのですが、各ワーキングの委員の皆さんにも、A4判で数ページ程度になるとは思いますが、今までの議論の振り返りですとか、科学委員会やワーキングでどういったことが課題になって、今後、どういったことに取り組んでいくべきなのかというような内容のコメントというか、原稿をご依頼する予定です。

お忙しい中、お願いになり恐縮ですが、ご協力をいただけるようにここでお願いをさせていただきたいと思います。

具体的なご依頼については、追って要綱と併せてお送りする予定でおります。以上です。

●山村座長 ただいまのご説明について、ご意見やご質問などがありましたらお願いします。

(「意見なし」)

●山村座長 それでは、予定していた議事については以上となります。

全体を通して聞き漏らしたことがありましたらお願いします。

(「意見なし」)

●山村座長 それでは、随分早く進行しましたけれども、進行をお返しします。

3. 閉会

●北海道(小峰) 山村座長、どうもありがとうございました。

また、委員の皆様、ご議論をいただきまして、ありがとうございました。

ご指摘のあったところもありましたけれども、資料の修正などを行いまして、また確認のお願い等をさせていただくかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

本日の会議内容につきましては、取りまとめの上、3月1日に開催されます科学委員会にご報告させていただきたいと思えます。

最後の知床財団からの資料の中にもございますけれども、2月28日土曜日に知床20周年を記念したシンポジウムが開催されますので、皆様、お忙しいところかと思えますが、ぜひご参加をいただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回海域ワーキンググループを終了いたします。

どうもありがとうございました。

以 上